

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことから，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

日常生活における時間概念の変容を主題とし，様々な資料を収集しながら行う探究活動の状況について取り上げた。

Aは，歴史総合の「歴史の扉」で触れられる労働時間の在り方の変化に関する資料を基にしたメモとグラフを用意し，当時の労働者の時間意識と生活文化の関係について授業で身に付けた知識と技能を基に考察する力を問うた。具体的には，近世ヨーロッパの「聖月曜日」や，戦後日本の女性雇用者に関するグラフを資料として取り上げた。

Bは，暦と標準時の統一に関する資料・年表・地図を素材とし，近代における日本史・世界史の影響関係について，歴史総合で学んできた知識と素材から読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。具体的には，明治政府が太陽暦を導入する理由を説明した資料と，関連する出来事をまとめた年表を取り上げた。

Cは，身近にある記念日と政治の関係に着目して，イギリス，朝鮮半島，沖縄の第二次世界大戦に関する記念日についての学習活動を取り上げ，パネルやノートから読み取った内容と世界史の知識を関連付けて考察する力を問うた。

いずれの小問についても，極端な解答結果は出でならず，正答率・識別力の点で妥当であった。

第2問

「国際イベントとその影響」という主題の下，「各イベントが，近現代の歴史の大きな変化の中で，どのような役割を果たしたのか」という問いを立て，Aでは19世紀の万博，Bでは20世紀前半の博覧会，Cでは20世紀後半のアジア競技大会と夏季オリンピックに関する問いを設定した。

Aでは，19世紀に開催された万国博覧会について取り上げ，本文の読み取りや資料の読み解きを基に，知識を踏まえて適切に判断できるか，また，資料の読み取りから内容を抽象化し，抽象化した概念を他の歴史的な事象に具体化できるかを問うた。具体的には，当時の万国博覧会と密接に結びついていた植民地主義に関する資料として，フランスの経済学者ポール＝ルロワ＝ボーリューの著作の要約を提示した。

Bでは20世紀前半の日本における万国博覧会を素材として、近現代の歴史に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉える力を問うた。会話文においては、明治・大正時代の日本国内の博覧会に触れ、朝鮮・台湾・満洲との関わりについても理解できるものとした。そして新聞記事の読み取りから、1940年の万博延期と当時の日本をめぐる国際情勢について考えさせるものとなっている。

Cでは、夏季オリンピックとアジア競技大会について、参加国と20世紀後半の国際関係との関わりについて考察する活動を取り上げ、示されたグラフから適切に読み取った情報を、戦後における国際情勢に関する知識と関連付けて考察できるかどうかを問うた。具体的には、大会参加国・地域数と国連加盟国数を重ねたグラフを資料として取り上げた。

いずれの小問についても極端な解答結果は出でならず、正答率・識別力の点で妥当であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

問2は、グラフそのものについては評価されたが、問うている知識が単純過ぎると指摘された。グラフを読み取った上で、その背景を考察させるなどの工夫をこらすことで、更に良問となるように目指したい。問4は知識を地図上に具象化させるものとなっており、地図の使い方に優れた良問であると評価された。今後もこのように地図の活用を目指した問題作成に励んでいきたい。問5については、誤答選択肢に工夫の余地があることが指摘された。改善に努めたい。問7は、思考力・判断力・表現力等を問う問題との評価を受けた一方で、比較的平易な問題との評価もあった。難易度のバランスをとりながらも、思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成に努めたい。問8は、知識・技能を問う良問である、受験者が国民国家概念について新たな気付きを得たのではないかと評価を得た。今後も思考力を問う問題の作成に努めるとともに、問題全体とのバランスに配慮しつつ、歴史総合として問うべき内容を精査し、難易度を工夫していきたい。

第2問

問1については、誤答選択肢に改善の余地があるとの指摘を受けた。今後は、誤答選択肢を工夫した問題を作成していきたい。問2については、資料を丁寧に読み解き得られた情報を概念化し、他の歴史的事象を条件に照らし合わせて類型化する、思考力・判断力・表現力等を問う良問として特に高い評価を受けた。また、問3も、会話文中の空欄に入る適切な1920年代の国際関係についての歴史的事象を選ぶもので、与えられた文脈から論理整合性に基づき推察していく問題は、思考力・判断力・表現力等を問う問題として適したものであるとの評価を受けた。今後もこのような出題を行いたい。問4は、20世紀の満洲に関わる出来事の推移についての理解を求め、年代順に配列するものである。満洲における日本の帝国主義政策の展開から考察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題との評価があった。年代配列問題は、年代知識のみではない、大きな流れを把握するようなものとなるよう、今後も留意したい。問5は、資料の読み取りと知識の組合せについては好評であったが、設問の設定や選択肢の工夫等によって、より資料を生かした問題になり得たとの評価を受けた。今後の作問に生かしたい。問6は思考力・判断力・表現力等を、問7、8は知識・技能を問うた点でおおむね好評であったが、中間の構造については、戦後国際社会の展開に関わる概念的理解について、踏み込んだ出題の可能性について指摘があった。今後は、概念的理解を前提としたり、あるいは概念的理解そのものを問うたりする形での作問に努めたい。

4 ま と め

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たった留意点についてまとめておきたい。

問いの対象となる資料については、文字資料、地図、グラフ、図像資料など多様な歴史資料を提示することに努めた。これは、資料やデータ等を基に考察することを重視したためである。ただし、文字資料がやや多くみられた。資料の多様性という観点から今後の改善点としてあげられるとの評価もみられ、今後とも資料の多様性には留意していく必要があるだろう。

また、大問単位に授業を想定した大きなテーマを設定し、中間単位に授業中のやりとりを取り入れ探究的な活動を行うなど、歴史総合の学びの場面設定を踏まえた出題とした。

単純な事實的知識ばかりではなく、その歴史的事象の内容や因果関係など内容の理解を前提とした包括的理解を問う問題、さらには歴史的事象が持つ意味や意義などの概念的理解を問う問題の出題を意識した。

総じて、日本史や世界史に区分できるものではない歴史総合の科目の特性が伝わるように心掛け、知識・技能を問う問題と概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスをとり、両者の融合を図る点にも配慮した。今後もこのような方向性を維持して作題に努めたい。